



安芸の宮島「厳島神社の大鳥居」

**慶應義塾大学 広島通信三田会報**

**みやじま**

**第58号**

**2020年6月**

**慶應義塾大学 広島通信三田会**

## 目次

- ・慶應義塾大学の通信教育課程に学んで得られたこと 益田由起子（2020年・法）・・・P1～3
- ・交友の道 瀬戸田誠（平成元年・経）・・・P3～4
- ・新型コロナ問題」と近況 川本典子（平成27年・文）・・・P4
- ・新型コロナの襲来 河村 保（昭和52年・経）・・・P5
- ・「コロナ禍、私見と音楽活動の近況」 檜原宏明（平成28年・文）・・・P6
- ・コロナ後の価値観とライフスタイル 迫田勲（昭和43年・法）・・・P7～8
- ・広島慶友会の近況 広島慶友会長 松岡和弘・・・P8～9
- ・塾情報、各地情報・・・P10
- ・編集後記・・・P11

会員、塾員、塾生の皆様、如何お過ごしでしょうか。

今年始め頃、中国で原因不明の肺炎（新型コロナウイルス）が発生、瞬く間に世界中に蔓延、数百万人に感染、数十万人の命を奪い、社会経済活動を停滞させ、100年に1度と云われる禍をもたらしています。緊急事態宣言が発令され、塾の入学、卒業式、「慶應連合三田会」などは中止、当通信三田会も幹事会や地区行事などが中止や延期になっています。こうした中、全国通信三田会幹事会では試験的にオンラインによる会議が行われました。今度会議や研修形式が大きく変わると思われます。こうした時世からコロナ問題と近況について特集しました。地球上にウイルスは存在するもの、その性質（正体）を知り、ワクチンの開発と共に、生活ではうまく付き合うことがコロナウイルスとの闘いに勝つ方法だと思います。こうした「新しい生活様式」を徹底し、お互い自分の身は自分で守りましょう、それが他人の身を守ること、社会を守ることに繋がると、思います。

## 慶應義塾大学の通信教育課程に学んで得られたこと

益田由起子（2020年・法）

私は、この3月に法学部甲類を卒業しました益田由起子です。卒業まで10年もの期間を要し、やっと卒業までこぎつけることができたことに感無量の思いです。50代前半で仕事を早期退職し、第2の人生へのチャレンジとして選んだのが大学での学びでした。それまでは仕事以外では関心のなかった法律をもっと身近に感じたいと、法学部を選びました。多くの大学の通信教育課程が存在する中、やるなら難易度トップの慶應だと高い目標値を掲げたことは、大正解でした。慶應義塾の理念に、「独立自尊」「実学」「気品の泉源」「半学半教」「自我作古」「社中協力」が掲げられていますが、在学中様々な場面でこれらの理念が実現されている様子を目の当たりにして、やっぱり慶應を選んでよかったと確信したのです。卒業生となった今、三田会という同窓会組織の仲間に加わることができたことは、大変光栄なことだとひしひしと感じております。

在学中に得たものは多くありますが、特に私にとって心躍るような経験について振り返ってみたいと思います。

## 1. 教授がやっぱりすごい！

何といっても、スクーリングや卒論指導で通学生と同じ教授陣から指導を受け、高いレベルの知見を獲得することができたことに大満足です。これはすごいことだと思います。私が広島慶友会の会長の任に就いている時、多くの教授と交流させていただく機会がありました。すべての先生方が大学の理念を共有されていて、学生と同じ目線に立って学問の楽しさを伝えてくださることに、大きな驚きがありました。大学の先生は偉そうにいつも威張っているのではと、勝手に想像していたものだから…。「ええー、こんなに自由に議論できるんだあ。全然権威的じゃない。」先生方の印象は、まさに目からうろこでした。一流の先生方から直に学問のすばらしさを教わった経験は、私の人生での最高の宝となりました。

## 2. 日吉や三田でのスクーリングが楽しい！

8月の夏期スクーリングが楽しみで、可能な限り日吉や三田の校舎で授業を受けました。日々自分で文献を読みレポートを作成していく勉強と異なり、教室で先生方の講義が生で聴けること・本だけでは理解しづらい内容も理解できること・他の学生と交流できることなど、大感激の連続でした。学食での仲間との語らいの時間は、若き日の学生気分そのものです。20代の仲間と議論していると、いつのまにか自分の年齢を忘れていました。約40年前に女子大を卒業した私にとって、性別・年齢を超えた自由闊達な談義は、自分の中の常識を問い直す良い訓練となりました。

## 3. レポートに汗だくだく！

入学したての頃は学習システムを理解することに精一杯で、レポートすら書けず、気がついた時にはすでに2年が経っていました。3年目に入った時これではいけないと、卒業までの計画を立て、まず1本レポートを書いて出すことを目標に掲げました。文献を読み漁らなければレポートが書けません。行ける範囲の図書館は全部利用して、借りては返す、借りては返す…の繰り返しでした。やっと書き上げたレポートを提出しても、返ってくるのは不合格ばかり。でも、そこでくじけてはだめだと言いかせ、意地になって何度も何度も出しました。そのうち、知識が自然と積み重なり合格へとつながっていったように思います。こうして、こつこつと6年かけてレポートと科目試験を制覇しました。おかげで最後の2年間は卒論に一点集中することができました。

## 4. 卒業論文で学問の神髄に迫る！

慶應義塾大学通信育課程の最後の高いハードルは、言わずもがな卒業論文です。レポートの4000字に比べ、こちらは何万字の世界となります。文献は少なくとも50冊程度は読まなくてはなりません。私は約50000字で書き上げました。内容はアクチュアルな素材を取り上げたいと考えていたので、『刑事訴訟におけるデジタル・フォレンジックの意義と法律家の役割』というテーマで進めました。指導教授から2年間で4回の指導を受け、その都度、新しい知見と課題をたくさん頂戴することができました。思考・吟味を何十回、何百回と繰り返し、学問の神髄に迫れたことは何にも勝る貴重な経験であり、私に非日常的生活の醍醐味を味わわせてくれました。2年間じっくりと卒論に時間をかけることができたおかげで、卒業面談では指導教授からお褒めの言葉とともに思った以上の評価を頂くことができました。

なんだか回想記のようになってしまいましたが、慶應通信に学んで得られたことは、これから始める終活をより豊かに彩ってくれるであろうし、新しいチャレンジを後押ししてくれる糧にもなるかと、

そんな予感がいたします。

慶應通信のOBの方がおっしゃいました。「慶應は卒業してからが実におもしろい。」その真意とは一体…(!) これから確かめていきたいと思っているこの頃です。

最後になりましたが、広島通信三田会のご推薦を賜り、卒業の際に、全国通信三田会より栄えある【ユニコン賞】を頂くことができました。この場をお借りして、広島通信三田会の会長様はじめ会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

広島通信三田会の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



卒業証書を手に



ユニコン賞表彰状と楯

## 『交友の道』

瀬戸田 誠（平成元年・経）

陽明学者・哲学者・思想家であった「安岡 正篤」氏は、次のように書き残している。

『今世に衰えたるものの一は交友の道である。個人主義の悪風潮、世の中の機械化、軽薄な理知と功利との横行、入学試験競争から始まる近代学校教育万能の弊害は、人と交わるの道、己を知り、己を修め、人を知り、人を立て、人を結ぶというような道を甚だしく閑却してしまった。深い意味における親友というものを持たぬ人々、人の上に立って一向人を知り人を用いる術を知らぬ人々、人を結んで事を成してゆくことの出来ぬ人々などが如何に多いことだろう。この物質と機械との世の中を荒廢の裡より救うにはどうしても交友の道を興さねばならぬ。それにはやはり深厚な体験と純正な見識とを具備する友道学というべきものを平生から学んでおくことが肝要である。』と。

そして、次の千円札の肖像に決まっている『北里柴三郎』が、福澤先生より受け継いだ精神を表す言葉として『独立不羈（どくりつふき）』という言葉がある。この言葉は、「何事にも束縛されず、自らものを考

え、自ら責任を持って行動する」という意味です。

まさに、この【コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令】に混乱した私たちの生活の中で欠落していた心構え、生き方をズバリ指摘された言葉と感じた。

『安岡 正篤』氏の言葉は昭和廿年端午に残されたもの。今私たちの『三田会』の交わりの中で改めて学び直さなければならない重い言葉に感じられた。そして、北里柴三郎氏の『独立不羈』は、福澤先生の『独立自尊』の精神に通じるもの。

『STAY HOME』で改めて感じました。

## 「新型コロナ問題」と近況

川本典子(平成27年・文)

この度「新型コロナ問題」についての原稿依頼を受けました。全く私事で参考にもなりません。近況を添えてご報告させていただきます。

今までは通院を兼ねて月に2～3回、市内中心部に出かけておりました。今年は高齢、心疾患のリスクを考慮し3月中旬から4月いっぱい出かけておりません。歯科医院の定期検診もキャンセルしております。買い物の回数もいつもの半分に減らしております(その分メニューに苦労しております)。薬も数か月分まとめていただきました。自分にできることと言えば3密を避ける事、うがい手洗いの実行くらいしかできません。時間のある時に「小池マスク」をせっせと手作りして遠方の家族に送っております。

毎年GWは家族が集合しバーベキューを楽しんでいましたが、それも今年はなくなり夫婦二人の寂しい時を過ごしております。孫も新しいランドセルを背負うこともなく、自宅待機しております。「9月入学もありかな」とも思っております。

また、家族に医療従事者が多いため感染も心配しております。ましてや誹謗中傷がある事は本当に悲しいことです。このようなときこそ人間性が顕れるのかもしれませんが。暫くは小さな庭で花を見たり、野菜を育てたり自分なりに楽しもうと思っております。

もう、10年も前になるのでしょうか、「広島三田会」の皆様と授業が終わった後、田町駅の近くの店で会食をしながら励まし合いました。あのころが本当の青春だったかもしれません。好きな文学を勉強しながら皆さんと語り合ったこと、忘れません。あの時は亡くなられた峠さんもおられましたね。懐かしいお顔がよく浮かんできます。

まだまだコロナ禍は収束しそうもございませんが皆様くれぐれもご自愛くださいませ。いつか世の中が落ち着いたとき、お目にかかれる日を楽しみにしております。

# 新型コロナの襲来

河村 保（昭和54年・経）

世の中大変なことに成った。歴史的にみて、感染症が人類に、激的な蔓延と死者を出して来たことが改めて認識されている。それなのに、対応が後手ばかりに思えてならない。

日に日に色々な事が言われて、戸惑う。専門家(会議)の意見も、新型コロナウイルスの特性を調査実証研究して公表すべきだと思うが、どうも言葉は多いが複雑で分かりにくい。『37.5度以上の体温が4日以上続いたら、医療機関に相談してください』。とんでもない話だ。(例外的に高齢者や肺疾患は除く)。多くの人が一度に医療機関に殺到すると医療機関が持たないからだという。PCR検査にも限界があるという。抗体検査・抗生検査というのも有るといふ。専門家はそれらを総合してどうすべきか示して欲しい。日光へ当てれば、コロナウイルスは死滅しないのか、一般マスクは何度も使えるのではないか？ 各人への2枚の郵送は経費から見ても疑問だ。各人が手作りもある。

呼吸器疾患の人の息苦しさはこの上なく厳しい。『37.5度以上の体温が4日以上』…律儀に耐えて、診療が遅れた人もあったそうだ。専門家(厚生大臣)は「誤解を与えた」と言い訳した。

日本の医療機関はそんなに脆弱なのだろうか。患者さんを診療するだけでいっぱい、調査研究はできないのだろうか？ 研究機関が不足している様子だが、それなら急速に拡充すればいい。

各個人へ10万円支給しても、個人ではコロナを研究する方法がない。治療薬の開発が緊急の課題である。ウイルス検査キットの開発も急いで欲しい。「出来るだけ早く検査して、特定し治療する」当たり前の事ではないのか。

幸いに日本人は教養が高く、栄養が行き渡っている。世界の国々では多人種で、予防・自粛が上手いか否か容易に予測される。日本では検査数が圧倒的に少ないのに、感染者・死亡者数がケタ違いに少ないのは幸いである。これは、上手くいっているからとも言えるのかもしれない。

それでも、もっと上手に対応できたのではと思えてならない。これは日本人の英知だ。

私はマスクをただけで、息苦しくて耐えられない。後期高齢者になって、生きる事への不安で毎日を過ごしている。私は生涯で何が出来ただろうか？……。

慶応大学の通信教育で学んで、沢山の友人を得ることが出来た。一生懸命に生きてきたので、『まあ、いいか』となだめている今日である。

# 「コロナ禍、私見と音楽活動の近況」

檜原宏明（平成28年・文）

コロナ禍で明らかになったのはこの国の政治、経済、マスコミの各レベルの現状である。バブル崩壊後の失われた20年とも30年ともいう中で国力の低下は何となく実感してはいたが、首相周辺はこの期に及んで保身と利権の貪りを考え国民の生活は蚊帳の外、マスコミは首相のウソを平気で流し、政権にとって都合の悪いことは隠蔽し、世論から強い反発と落胆が出るまでは政府は国民に対して布マスク2枚で済まそうとしていた。そもそも初動段階から失策を重ねている。首相が自分の任期中の花道として年内、夏のオリンピック開催にこだわり、感染の実態隠蔽を含め、対策が後手後手となり、結局オリンピックは1年の延期となったが(それも無事開催できるかは疑問だが)、ほどなく掌を返し緊急事態宣言という始末。4月27日現在、スーパーやコンビニなどを除いてここ福山で開いている店は殆ど無い。状況を踏まえるとやむを得ないとも思えるが、ややうす気味悪さを感じる。日本社会に蔓延する同調圧力も一因だろうが、個人的には各自の判断が尊重されてもいいように思う。今は命を守るために経済活動は我慢すべきだという考えにも勿論一理はあるが、命を守ることと、経済を回すことという二項対立は成り立つだろうか。少数の有産者を除いて、多くの人々は日々の生活のため、生命活動を維持するためにもある程度の収入が必要である。国や自治体に経済活動の自粛要請に対する補償ができるのなら話は別だが。一度閉ざされた道は容易には元通りにならない。テレワークの普及などのポジティブな側面もあり、働き方や人々の意識も今までと同じではいられないだろう。今後も、ニューノーマルとしてこのようなことは起こり得るからだ。

さて、ここから私の近況をお知らせします。音楽活動の方で、現在メジャー第2弾シングル全国発売の準備をしています。発売元は(株)インターナショナルミュージックです。この度はA面の作詞を私が担当します。作品自体は既に出来上がっていますが、レコーディングはまだで、来年の発売を目指しています。なお、タイトル、歌手はまだ発表できる段階にありません。カップリング曲は私が作詞作曲を手掛けます。檜原一二三作詞作曲第1弾シングル「一度きりの恋」はJポップなのですが、演歌レーベルからの発売ということもあり、中高年層を中心に広がりカラオケで歌われています(もっとも、最近は店自体が営業していないので減りましたが)。三田会でも沢山の方にお買い上げいただき本当にありがとうございます。第2弾シングルも是非よろしくお願い致します。

# コロナ後の価値観とライフスタイル

迫田勲(昭和 43 年・法)

今年(2020年)2月25日付の地元新聞の紙面に「コロナ」の言葉が223個あったと、ある読者が投稿していた。今、国会もコロナ、コロナ、テレビや新聞もコロナ報道一色、政府関係者は100年に一度の国難と言っているほど重大な禍である。

新型コロナウイルス(眼に見えない敵)がパンデミック(世界的大流行)、世界数百万人に感染、数十万人の生命を奪い、不安と恐怖に落とし入れている。企業の大幅な赤字、倒産、失業、雇用、医療現場の崩壊、教育の在り方など、人々の暮らしや経済に影響を与え、更に感染者や医療従事者に対する誹謗中傷、差別や怪奇な情報がSMSで発信、拡大され、更に便乗詐欺まで発生、社会問題に発展している。ウイルスは存在しているものでその性質を知り、うまく付き合うことが大切、と専門家は云われている。政府、専門家は治療薬の開発が進み、新しい生活様式などが国民に定着すれば収束するが、国民の気が緩めれば直ぐ再発、長期戦になると警告している。過去、ペストやコレラ、インフルエンザとパンデミックを乗り越え、時代を変えた。

今回の新型コロナウイルスはどのような時代に変えていくのか、新しい技術の開発や生活様式で社会の仕組みが変わり、人の価値観やライフスタイル(生き方)が変わると思う。お金や経済優先、便利さの価値観から豊かな自然の中で農(食)を楽しみ、自分らしい生き方を人生哲学とする価値観へと。都会に比べ人が少ない田舎は、感染リスクは少ないが不便で過疎化が進み、人口が激減、空き家や耕作放棄地が多く発生、今後も多く発生することが予想される。

私は地区の仲間と一緒にNPO法人を設立、農村の維持、過疎地の活性化等をテーマに空き家バンクを設立、広島県のホームページに地区の空き家情報を公開、購入や賃貸の希望者に相談に乗り物件を案内するボランティア活動をしている。スーパーも病院も小学校もない、農林業以外働く場もない過疎の先進地であるが、これまでHPを見て、又聞きつけて、多くの希望者を案内、相談に乗っている。農村の食・命、と都会の便利さ・快適さ、どちらを選ぶ(優先する)か、これは人それぞれの事情や価値観、ライフスタイル(生き方)の問題であるが、今回のコロナの禍は、価値観やライフスタイルを見直すきっかけになると思う。テレワーク、オンライン会議など働き方が変わり、意識も変わると思う。

昨年、我が地区にテレビに出てくるような「山の中の一軒家」に広島市内のど真ん中から移住してきた40代の夫婦がいる。県道から約1.5km入った集落の中でも離れた一軒家、往時は30数軒あったが、山の中腹で便利が悪いため次々離村、結局この一軒家になった。高齢の婦人が1人で平屋建ての母屋(約40坪)に2階建ての離れ(約30坪)、それに2階建ての納屋(約50坪)に住み、周辺の農地と山林を所有、管理していたが亡くなり、10数年間空き家になっていた。後を継ぐ子供がいなく、親戚が家の管理や草刈などをしてきたが、このまま放置して崩壊するより、欲しい人に使ってもらおうほうが家も喜ぶ、ご先祖様も喜ばれる、無償で提供するから、誰か入ってくれる方はいないか、とある方を通じて相談があった。



この移住者には便利な道路沿いの空き家も紹介したが、ここは眼前の山から登る朝日を浴び（眺望は抜群）、活かされていることを実感、自分で栽培する喜び、食に感謝、都会の雑踏を離れ人間らしく生きたい、と奥さんの強い希望で敢えてこの地を選んだ。更に自分で栽培した野菜や果物で友人、知人を呼びホームパーティをするのは長年の夢であると。奥さんはハーブ講師と当地の休耕田を利用してハーブづくりを行っている。将来ハーブガーデンの夢をもっている。



山の中の一軒家 母屋、左は離れ、母屋の右に納屋がある



家から見た全景、中央の山が牛頭山（689m）

今回の新型コロナウイルスは、世界中の人々に感染、多くの死者を出し、不安と恐怖に陥れた。1回限りの人生を、何を基準（拠り所）に、何に喜びを感じ、その価値感とともに自分らしい生き方、ライフスタイルを考えるきっかけになると思う。

「人生は長いようで短い、君はそれに気づいているか」はある住職の話。80歳を過ぎ、実感している。尚、個人的には被爆体験伝承者研修（3年間）を終え、広島市長から認定、委嘱状をもらい、4月から修学旅行生などに講話する予定であったが、コロナ問題で原爆資料館が閉鎖、今はオンラインでの会議や研修会に参加している。

## 広島慶友会の近況

広島慶友会長

松岡 和弘

はじめまして。昨年度より広島慶友会長を務めております松岡 和弘と申します。

初めに、この場を借りて、当会の活動にご理解、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、広島通信三田会様の会報「みやじま」に寄稿の機会をいただけますこと、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。皆様、体調はいかがでしょう。大学の学事にも影響が出ており、4月4～5日に実施予定だった科目試験が中止になって代替レポートが課されました。広島慶友会でも3月例会より活動を停止せざるを得なくなっており、今後の例会や講師派遣実施にも暗雲が立ち込めています。早くこのウイルスが収束することを祈るばかりです。

本稿では、改めて広島慶友会の概要を簡単に説明するとともに、近況をご報告したいと思います。まずは広島慶友会の概要をご紹介します。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、広島慶友会とは広島

県とその周辺の通信教育課程に在学する塾生の集いです。年 2～3 回の講師派遣行事や例会の実施など、月に 1 度は何らかの形で顔を合わせるようにイベントを設定しており、モチベーションの維持に努めています。私自身は 2016 年春に経済学部へ入学し、今年 5 年目に突入しました。今年新塾員となられた益田 由起子さんから昨春広島慶友会長を引き継ぎました。この原稿を書いている段階では 106 単位まで取得。そろそろ卒業が見えてきたかなという段階まで来ましたが、卒業論文のテーマで悩んでおりまして、いろいろアンテナを張って情報収集をしているところです。

次に広島慶友会の近況についてご紹介したいと思います。4 月現在で広島慶友会の会員は 13 名となりました。最盛期のころはこの倍以上の会員がいて、福山や呉にも慶友会があったと聞いたことがありますので、往時をご存知の方にとっては寂しい限りではないかと思えます。昨年は 9 月と 12 月に講師派遣を行い、文学部の堀田隆一教授（9 月）、経済学部の土居丈朗教授（12 月）をそれぞれお招きしました。どちらも県外からの参加者もあり、10 名前後の少人数ではありましたが、だからこそ講義というよりはゼミ方式の、先生とより近い関係で講義を聴くことができました。また、夏期スクーリングではお盆休みと重なるⅡ期に集まる塾生が多いことから、京滋・大阪・岡山・山口の各慶友会様とも交流を持たせていただきました。また、福岡慶友会様主催の懇親会にも代表として参加し、九州方面への交流の開拓にも努めています。今後も、多くの慶友会とのつながりを維持、また開拓することで、同じ塾生としての横のつながりを大切に、例えば当会員の中で都合により広島県を離れる方が新天地でも勉強を続けられるよう、また慶友会活動を続けられるような仕組みを整えることができれば、と思っています。

今年も引き続き例会、講師派遣を実施していく計画でしたが、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく活動を停止しています。再開後、例会についてはいままで広島市内で開催していましたが、今年は実験として 1 回（11 月例会を考えています）を福山市で開催し、慶友会に興味はあるけど広島市が遠いので難しいと思われる県東部の方々にも参加しやすい体制を整えようと考えています。

通信教育課程では自分でテキストを読んでレポートを書くなど孤独に勉強することが多く、自分が塾生であるということを意識する機会はかなり少ないと思います。だからこそ私は、つながり・ご縁は大事であると考えております。横のつながり・ご縁はもちろんですが、縦のつながり・ご縁（三田会様との関係）も大事だと考えています。これが慶應義塾の精神である「社中協力」ではないかと考えています。昨年も塾生でありながら広島慶應倶楽部の総会に参加させていただく機会を頂きました。このご縁は大事にしていきたいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



昨年 9 月の講師派遣（文学部堀田隆一教授）



昨年 12 月の講師派遣（経済学部土居丈朗教授）

# 塾 情 報

## 2019 年度通信教育課程卒業生数

文学部 105名、経済学部 53名、法学部 48名 合計 206名

※ 出所『ニューズレター慶應通信 2020/4』から、神奈川通信三田会副会長塾員部 宮坂きよ子様が作成されたものを会員の為、引用させていただきました。

## 卒業生累計 (単位：名)

年月	2016・3	2016・9	2017・3	2017・9	2018・3
卒生数	162	83	154	89	151
累計	15063	15146	15300	15389	15540
年月	2018・9	2019・3	2019・9	2020・3	
卒生数	87	148	93	113	
累計	15627	15775	15868	15981	

※ 出所 この数字は 神奈川通信三田会副会長・塾員部長 宮坂きよ様が全国通信三田会にて累計したもの（大学側は未公開）を会員の為、引用させていただきました。

## 日吉記念館竣工

新しい「日吉記念館」が完成 (地上4階、地下2階建て。約5618平方メートル)  
固定座席4560席、移動可能な座席を含めると1万人規模のイベントが可能。

**風に鳴る我が旗（塾旗）**が聳えています。

今年は新型コロナウイルスのことで卒業式、入学式などの行事が中止になり使用されませんでした。



出所：慶應義塾ホームページから引用

## 編集後記

今春卒業した益田由起子君から、難関の慶應を選んでよかったこと、スクーリングで多くの学友と一流の教師陣に出会い学ぶ喜び、思考・吟味を何十回、何百回と繰り返し、学問の神髄に迫れた卒論など、塾生生活の思い出を語ってくれました。慶友会時代の功績からユニコン賞受賞されました。優秀な塾員が誕生したことを嬉しく誇りに思います。

これからは慶應ライフを楽しみ、三田会活動に、そして後輩の良き助言者として活躍していただくよう期待します。「慶應は卒業してからが面白い」本当にそうです。存分に実感して下さい。

また、今春卒業した益田由起子君から慶友会長を引き継いだ松岡和弘君（経）から広島慶友会の現状（会員13名、講師派遣や中国地方の慶友会のみならず、大阪、京滋、福岡などの慶友会との交流など活発な活動）を報告していただきました。自らは100単位以上取得、卒論テーマに情報収集中のこと、あと一息、益田先輩を言っておられた最後の難関に立ち向かい、是非卒業、晴れて塾員になれる日を待っています。



三田のシンボル 図書館（迫田撮影）

慶應義塾大学 広島通信三田会報 みやじま 第58号

発行 広島通信三田会 会長 迫田 勲

編集 広島通信三田会 幹事（広報担当） 小林節子

〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内1448番地

E-mail [i-sakoda@h9.dion.ne.jp](mailto:i-sakoda@h9.dion.ne.jp)

発行 2020年6月10日